

# 国際ボランティア学会

## ニュースレター NO.5

2002年7月5日  
国際ボランティア学会事務局  
〒565-0871 吹田市山田丘1-2  
大阪大学人間科学部ボランティア人間科学講座内  
Tel & Fax : 06-6879-8064

### (内容)

1. 第4回大会のお知らせ
2. 役員選挙について
3. 第3回隅谷三喜男賞の選考について
4. 第3回大会の報告
5. 第3回国際ボランティア学会理事会について
6. 第3回国際ボランティア学会理総会について
7. 『ボランティア学研究』について
8. 会費納入のお願い
9. 事務局より

2002年は「NGOの年」と呼ばれるのだろうか

事務局長 内海成治(大阪大学)

2001年9月11日、私はマニラにいた。ホテルのテレビでアメリカの同時多発テロの衝撃的な映像を見つめていた。ニューヨークのいやアメリカの象徴というべき世界貿易センタービルに次々と巨大な旅客機が衝突し、ビルが炎上して崩壊する様子をテレビ中継で見ている自分が信じられない思いであった。でも、その時は、これが自分とかかわりがあることになるとは思わなかった。

2001年12月のアフガン支援NGO国際会議に教育部門のコーディネーターとして出席した。この会議はアフガニスタンのNGO関係者30人と多数の日本のNGOや政府関係者が結集し、非常に充実した会議であった。閉会式にはアフガンNGOの代表者がアピールを読み上げ、緒方貞子さんや岡本行夫氏が挨拶にたった。この会議を実施したジャパン・プラットフォームの中心メンバーの大西さんには、国際的なNGOの代表者としての力量を感じた。その大西さんが、1月のアフガン復興支援国会議から締め出され、それがきっかけとなってNGO問題として、外務省そして国会を激震させた。

私自身は、今年の1月からお茶の水女子大を中心とするアフガニスタン女性教員支援の委員会に参加。2月からは内閣府アフガン女性支援懇談会のメンバーになる。4月には技術協力調査団員としてアフガニスタンに2週間出張した。5月にはJICA専門家としてアフガニスタン教育省に3週間派遣された。

国際協力に関わって20年以上になるが、アフガニスタンには行ったことがなかった。10年程前にパキスタンのペシャワールに行き、ここをもっと西に行くとカイバル峠でその先がアフガニスタンだなと考えたことはあった。

アフガニスタンから次のようなメールを大学の学生たちに打った。

「やっとメールが繋がるようになりましたので、アフガニスタンからご挨拶いたします。5月のカブールは高原の気候でさわやかです。4月には雪をかぶっていた周辺の間山々から雪が消え、赤味かった茶色の山肌が紫にかすんでいます。朝夕には空が澄み渡り、大変美しいところです。

ただ、乾燥がきつく、埃っぽいので、喉が痛くなり、また風邪を引きやすいようです。4月にこちらに来たときはまだ寒くかなり辛かったのですが、5月になって日中は暑いぐらいです。なので若干調子がよいようです。

カブールに入って、早くも2週間が経過しました。教育省の中に事務室をもらったのですが、ゆっくり仕事をすることもなくカブール市内を飛び回っています。動いている先は、政府機関、学校、教員養成校、大学、援助機関、NGOなどです。この時期はアフガンの教育支援の柱をどこに置くかの大切な場面であると思っています。問題は支援の中心を公教育におくのかノンフォーマル教育にするのか、あるいは復興のイニシャティブを政府がとるのか国際援助機関かということではないかと思います。また、それとは別に日本のNGOが活発に活動していることに感心しています。ともかく、アフガニスタンに来て、いろいろな意味で考えさせられています。元気にしていますので、ご安心ください。5月25日

カブールに行って感じたことのひとつは日本のNGOが欧米のNGOと負けない活動を行っていることである。日本大使館は仮大使館、仮公邸であり、国際協力事業団のアフガニスタン事務所も仮事務所の段階である。しかし、JENやピース・ウンズ・ジャパン、セイブ・ザ・チルドレン・ジャパンは市内に事務所を構え、常駐日本人スタッフと現地スタッフが活発に活動していた。いくつかのNGOは地方で活動している。

アフガニスタン問題をきっかけにNGOが日本全体の話題になったが、これは決して偶然ではなく、NGOの実態とNGOを見る目が大きく異なっていたことが明らかになったということであろう。NGOは国際社会に確固とした地位を築いているのであり、日本のNGOの活動は大きな評価を得ているのである。NGOに正当な評価を与え、公的な資金を含めて支援することはきわめて当然のことなのである。

2001年「ボランティア国際年」なら2002年は「NGOの年」とでも言うべきだろう。4年目を迎えた国際ボランティア学会の役割は大きく広がっているということが言えよう。また、今年は役員選挙や学会賞の見直しなどが行われ新たな飛躍の年であることが期待されている。そのためには多くの会員の方々が大会につどい、学会誌に投稿していただき、今後のボランティアやNGOのあり方を大いに議論していただきたい。特に若い研究者、実践者の方々が積極的に学会

---

活動を支えてくださることをお願いしたい。

## 1. 第4回大会のお知らせ

### (1) 開催要領について

【日時】2002年10月26日（土）および27日（日）

【会場】大阪YMCA

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6

TEL：06-6441-0894／06-6445-0297

【大会実行委員会】委員長：錦織一郎（大阪YMCA）

委員：中村安秀（大阪大学大学院）・田尻忠邦（大阪YMCA）

【大会事務局】内海成治（大阪大学大学院）・関嘉寛（同）・岡崎和代

【大会スケジュール】

- ・自由研究発表（別項参照）
- ・隅谷三喜男賞受賞式（賞については本ニュースレターをご参考ください）
- ・特別講演：（交渉中）
- ・シンポジウム：「国際ボランティアの未来」
  - コーディネーター：中村安秀（大阪大学大学院）
  - パネリスト：板東あけみ（ベトナムの子ども達を支援する会）  
藤崎智子（Health and Development Service:HANDS）

細見一雄（あしなが育英会：レインボーハウス神戸）  
立野純三（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）

【タイムテーブル】

10月26日（土）

9:00～ 受付開始  
9:25～12:00 自由研究発表  
12:15～13:15 理事会・編集委員会  
13:30～13:45 隅谷三喜男賞授賞式  
13:45～15:15 特別講演（未定）  
15:30～17:30 シンポジウム  
18:00～19:30 懇親会

10月27日（日）

9:00～ 受付開始  
9:25～12:15 自由研究発表  
12:30～ 総会

【参加費】

大会参加費（含む「発表要旨集録」代）：正会員：3,000円／学生会員：1,500円  
法人会員：6,000円／臨時会員：4,000円

懇親会費：正会員・学生会員とも5,000円

【参加申込手続き】

別紙の「参加・発表申込書」に必要な事項を記入の上（不参加の場合も）、郵送またはファックスにて事務局までご返送下さい（期限 2002年7月31日）。

(2) 自由研究発表について

【申込要領】

「参加・発表申込書」に必要な事項を記入の上、2002年7月31日（水）〔必着〕までに、郵送またはファックスにて申し込み下さい。

【発表時間】

個人発表：発表時間20分、質疑5分  
共同発表：発表時間40分、質疑10分  
各セッションに全体討論の時間を30分程度設定します。

【発表要旨集録】

自由研究発表希望の方には、後日「発表要旨の執筆要項」をお送りします。この要項を参照の上、2002年9月15日（月）〔必着〕にて学会事務局に郵送して下さい。

なお、「発表要旨集録」はダイレクト印刷にて作成いたしますので、必ず所定の様式で作成して下さい。

【発表にあたっての留意事項】

- 1) 一度申込まれた発表題目の変更はできません。
- 2) 発表部会につきましては、下記のような部会を検討しておりますので、第1希望と第2希望を記入して下さい。最終的な調整は事務局にお任せいただきます。

①理論・思想・歴史

- ②ボランティア政策・ボランティア行政
- ③福祉・介護
- ④学校教育
- ⑤生涯教育
- ⑥青少年活動
- ⑦NGO・NPO
- ⑧国際協力
- ⑨災害救援
- ⑩海外におけるボランティア活動
- ⑪企業とボランティア
- ⑫まちづくり
- ⑬その他

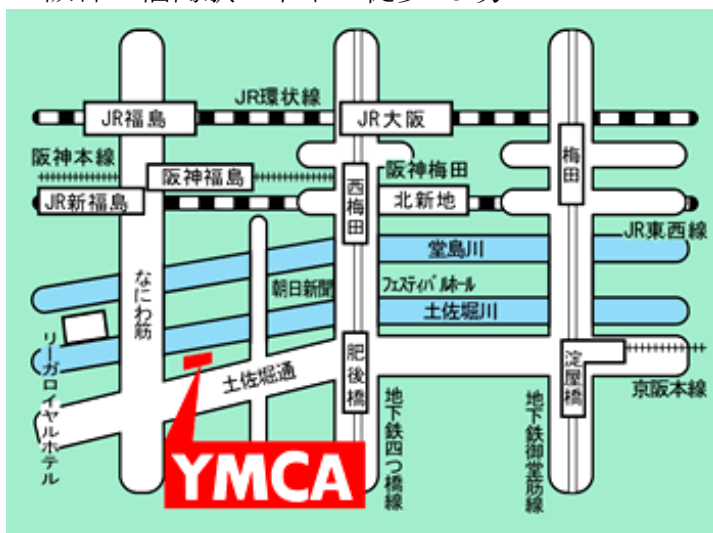
3) 共同発表の場合は、共同発表者の氏名と所属を記入し、当日の発表者に○印をつけて下さい。なお、共同発表者全員が学会員であることが求められておりますので、会員以外の方がおられる場合には、学会事務局宛てに早急に入会の手続きをお願いいたします。

### (3) 懇親会について

10月26日(土) 18時より、会場の大阪YMCAにて開催いたします。

### (4) 大会会場への交通

- ・地下鉄 四ツ橋線肥後橋駅 下車 徒歩5分
- ・地下鉄/京阪 淀屋橋駅 下車 徒歩10分
- ・JR 北新地駅/新福島駅 下車 徒歩15分
- ・阪神 福島駅 下車 徒歩15分



### (5) 宿泊等

学会としてお世話できませんので各自お申し込みください。

### (6) 大会に関する問い合わせ先

国際ボランティア学会事務局 (関・岡崎)

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2

大阪大学人間科学部ボランティア人間科学講座内

TEL&FAX: 06-6879-8064 / E-mail: seki@hus.osaka-u.ac.jp

## 2. 役員選挙について

この度、国際ボランティア学会では、会則および第3回大会時の総会での決議に沿って、役員選挙を行うこととなりました。詳細は同封の役員選挙案内をご覧ください。選挙関連の資料としては、

- ①選挙案内
- ②被選挙権者名簿
- ③投票用紙

以上の3点が同封されておりますので、ご確認ください。

※なお、投票用紙は、2002年7月26日（金）事務局必着となっておりますのでご協力お願い致します。

## 3. 隅谷三喜男賞について

### (1)選考規定

第3回隅谷三喜男賞は次のような規定で選考することになりました。

---

#### 隅谷三喜男賞選考規定

##### 1. 名称

本賞は、国際ボランティア学会隅谷三喜男賞と称する。

##### 2. 主旨

本賞は、初代会長隅谷三喜男博士を記念し、ボランティア学研究およびボランティア活動の発展を期して、研究および実践を奨励することを目的とする。受賞者には賞状および記念品を授与する。

##### 3. 対象者

毎年度原則、2名（個人あるいは団体）

##### 4. 選考対象

- (1)著作・論文（学会誌掲載論文、およびボランティア学に関する著書・論文）
- (2)実践

どちらも、賞の対象となる論文・活動記録を、自薦あるいは他薦により、本学会隅谷三喜男賞選考委員会あてに、本賞に応募する旨を明記して、申し出た者。

##### 5. 選考委員会

本学会理事の互選による5名以内で構成する。選考委員の任期は3年とし、再任を妨げない。選考委員長は選考委員の互選とする。選考委員会は必要に応じて会員の協力を求めることができる。

##### 6. 選考手順

選考委員会は選考を当該年の総会以前におこない、理事会の決議を経て、大会および総会において発表する。

#### 附則

本規定は常任理事会の議を経て2002年6月7日より有効とする。

---

### (2)隅谷三喜男賞への自薦・他薦のお願い

今年度の国際ボランティア学会隅谷三喜男賞は、以上の規定により、選考されることになりました。みなさまからの応募をお待ちしております。（期日は8月末日）

## 4. 第3回大会の報告

第3回大会は、2001年10月27日28日に恵泉女学園大学（東京都多摩市）においておこなわれました。自由研究発表、特別講演・シンポジウム、課題研究など、予定していたプログラムはすべてとりおこなわれました。

あいにくの雨で、参加者は多少少な目でしたが、それぞれのプログラムにおいて、非常に内容の濃い議論がなされました。

## 5. 第3回国際ボランティア学会理事会について

2001年10月27日に第3回国際ボランティア学会理事会が開かれました。

[報告事項]

### 1. 事務局報告

- ①第3回大会の運営について
- ②第3回大会のプログラムについて
- ③「ボランティア国際年」記念シンポジウムについて

### 2. 編集委員会報告

- ①第2号の刊行と配布について

[決議事項]

### 1. 隅谷三喜男賞について

- ①隅谷三喜男賞選考委員会の決定の承認

- ・選考委員会の決定

- <研究奨励賞>

- 大江浩氏 「災害救援とYMCA」（『ボランティア学研究』第2号掲載）

- <実践奨励賞>

- （社）日本キリスト教海外医療協力会のNGOの草分け的活動に対して

- ◆承認

- ②今後の選考について

- ◆決議：明確な規定を定め、選考していくこととする。

### 2. 今年度の収支と会計監査について

- ①現在の会員数（報告）

- 会員数：284名／団体（正会員258名／学生会員18名／法人会員8団体）

- ②収支状況

収入		支出	
年度繰越金	422,305	大会費	416,662
費	528,000	大会準備金	300,000
会参加費	183,000	学会誌印刷代	778,750
		通信費	24,120
		会議費	28,820
		雑費	1,365
計	1,133,305	計	848,817

収支：284,488円（次年度繰越金）

- ◆承認

- ③会計監査について

今年度の会計については、必ず監査を受けること。また、試行として、昨年度分についても監査を行う。

◆承認

3. 来年度（2002年度）の事業について

第4回大会

『ボランティア学研究』第3号の発行

役員選挙

◆承認

4. 第4回大会の開催校について

2002年10月26日（土）27日（日）に、大阪YMCAにおいて開催する。

◆承認

5. 役員選挙について

①理事選挙の細則を作成する。→常任理事会で決定する。

◆承認

②実施スケジュール

細則にしたがい、第1回選挙を第3回大会以後、第4回大会前までに実施する。その結果を、第4回理事会および総会に諮る。

6. 第3回国際ボランティア学会総会について

第3回理事会で、承認された事項を、総会にかけた。すべての項目について、承認を受けた。

会員からの意見として、広報活動にも力を入れるべきだというものがあった。

7. 『ボランティア学研究』について

現在、『ボランティア学研究』第3号の論文・フィールドレポートを募集中です。ただし、編集作業の関係上、7月31日が締め切りとなっています。

なお、執筆規定等につきましては、『ボランティア学研究』あるいは下記のホームページをご覧になれるか、事務局までTel、FaxまたはE-mailにてご請求ください。またご不明な点なども、同様に事務局までご連絡ください。

URL: <http://volunteer.hus.osaka-u.ac.jp/society/> / E-mail: [seki@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:seki@hus.osaka-u.ac.jp)

8. 会費の支払いのお願い

2002年度分会費の納入をお願いいたします。今年度の会費は以下の通りです。同封の振り込み用紙をご利用ください。

[年会費]

一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

なお、今年度新規に入会された方は、入会金も会費とあわせて納入してください。

[入会金]

一般会員：5,000円／学生会員：2,000円／法人会員：10,000円

9. 事務局からのお知らせ

ボランティアや市民活動などに関する情報やエッセイなどがありましたら、お手数ですが学会事務局までお送りください。あわせて、紙面へのご意見・ご希望などもお待ちしております。

また、住所・所属等を変更された場合は、速やかに事務局までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。